**運 行 管 理 規 程**

年　　月　　日　　制　定

年　　月　　日　　実　施

住　　所

事業者名

代 表 者 ㊞

**運　行　管　理　規　程**

**第 １ 章　総　則**

（目　的）

第１条　この規程は、運行管理者（以下「管理者」という。）が事業用自動車（以下「車両」という。）の運行の安全管理及び事業遂行に必要な運転者及び運転の補助に従事する従業員（以下「乗務員」という。）の指導監督についての職務並びに必要な権限について定め、もって安全運行の確立を図ることを目的とする。

（管理者の選任等）

第２条　管理者の選任は、運行管理者資格者証の交付を受けた者のうちから別表に示す数に従い代表者が任命するものとする。

２　選任した管理者の氏名を社内の見易い箇所に掲示して全員に周知徹底するものとする。

３　管理者を選任したとき及び選任に係る管理者を解任したときは、一週間以内に営業所の所在地を管轄する運輸監理部長又は運輸支局長に届け出るものとする。

４　管理者を同一営業所に２名以上置く場合は、その業務を全般的に統括する管理者（以下「統括管理者」という。）を代表者が任命するものとする。

５　選任した統括管理者の氏名を社内の見易い箇所に掲示して全員に周知徹底するものとする。

６　管理者の補助者を選任する場合は、運行管理者資格者証を有する者又は国土交通大臣が認定する基礎講習を修了した者のうちから代表者が任命するものとする。

７　選任した補助者の氏名を社内の見易い箇所に掲示して周知徹底するものとする。

８　補助者の選任については、運行管理者の履行補助として業務に支障が生じない場合に限り、同一事業

　者の他の営業所を兼務しても差し支えない。

　　ただし、その場合には、各営業所において、運行管理業務が適切に遂行できるよう運行管理規程に運

　行管理体制等について明記し、その体制を整えておくこととする。

（運行管理の組織）

第３条　運行管理の組織は、次の各号に掲げる事項によるものとする。

⑴　管理者は、担当役員の指示により運行管理業務全般について処理するものとする。

⑵　統括管理者を選任する営業所にあっては、担当役員の指示その他により運行管理業務を統括するものとする。

⑶　統括管理者以外の管理者については、それぞれの職務分担を明確にしておくものとし、統括管理者の指示に従い、その業務を遂行するものとする。

⑷　補助者は、管理者の指示により運行管理業務の補助を行うものとする。

⑸　営業所と車庫が離れている場合は、管理者又は補助者が十分な管理を行える体制を樹立するものと

　する。

⑹　管理者は乗務員に対し、法令、社内規則及び管理者又は補助者の指示を忠実に遵守させ、輸送の安全確保に努めさせなければならないものとする。

⑺　運行管理の指揮指令の系統は、別添組織図のとおりとするものとする。

（管理者及び補助者の勤務時間等）

第４条　管理者及び補助者の勤務時間は、就業規則によるものとする。ただし、車両の運行中は必ず管理者又は補助者は、営業所で執務していなければならないものとする。

２　管理者を同一事業所に２名以上置く場合は、その職務分担と勤務時間を明確にしなければならないものとする。

（管理者と補助者との関係）

第５条　管理者は、補助者に対して補助させる管理業務の範囲及びその執行方法を明確に指示するものとする。

２　補助者は、運行管理者の指導及び監督のもとに、次の各号に掲げる事項について該当するおそれがあ

　　ることが確認された場合には、ただちに運行管理者に報告し、運行の可否の決定等について指示を受

　　け、その結果に基づき各運転者に対し指示するものとする。

　　(1)　運転者が酒気を帯びている。

　　(2)　疾病、疲労、睡眠不足等その他の理由により安全運転をすることができない。

　　(3)　無免許運転、大型自動車等無資格運転。

　　(4)　過積載運行。

　　(5)　最高速度違反行為。

３　管理者は、補助者の行った運行管理業務を把握し、その処理した事項の責任を負うものとする。

４　管理者は、補助者に対する指導及び監督を行うものとする。

**第２章　権限及び職務**

（権　限）

第６条　統括運行管理者は、本規程に定める運行管理を統括するものとする。

　２　管理者は、本規程に定める職務を進行するために必要な権限を有するものとする。

３　管理者は、安全運行の確保に関する必要な事項を上司に助言することができるものとする。上司は、

管理者から助言があったときはこれを尊重するものとする。

（職　務）

第７条　管理者は、貨物自動車運送事業輸送安全規則第20条に規定する事項及び本規則に定めるところに従い誠実公正にその職務を遂行しなければならないものとする。

（酒気を帯びた状態の乗務員の乗務禁止）

第８条　管理者は、酒気を帯びた状態にある乗務員を車両に乗務させてはならないものとする。

**第３章　業務の処理基準**

（選任運転者以外の乗務の禁止）

第９条　管理者は、運転者として選任された者以外の者及び無資格に車両を運転させてはならないものとす

　　る。

２　管理者は、日々雇い入れられる者、二月以内の期間を定めて使用される者又は試みの使用期間中の者

　（十四日を超えて引き続き使用されるに至った者を除く）に車両を運転させてはならないものとする。

（運転者の確保）

第10条　管理者は、安全運行を確保するために必要な員数の運転者を常に確保するよう努めるものとする。

　２　管理者は、運転者が長距離運転又は夜間の運転に従事する場合であって、疲労等により安全な運転を

　　　継続することができないおそれがあるときは、あらかじめ、該当運転者と交換するための運転者を配

　　　置するよう努めるものとする。

３　管理者は、運転者の採用に関して人事担当者に協力するものとする。

（運転者台帳）

第11条　管理者は、営業所に所属する運転者について、運転者ごとに次の各号に掲げる事項を記載した運転者台帳を備付、運転者の実態の把握及び指導の際に活用するものとする。

⑴　作成番号及び作成年月日

⑵　事業者の氏名又は名称

⑶　運転者の氏名、生年月日及び住所

⑷　雇入れ年月日及び運転者に選任された年月日

⑸　道路交通法に規定する運転免許に関する次の事項

　（ｲ）運転免許証の番号及び有効期間

（ﾛ）運転免許の年月日及び種類

（ﾊ）運転免許に条件が付されている場合は、その条件

⑹　事故（道路交通法第67条第2項及び自動車事故報告規則第2条に規定する事故）を引き起こした

場合又は道路交通法第108条の34の規定による通知を受けた場合は、その概要

⑺　運転者の健康状態

⑻　第14条第2項の規定に基づく指導の実施及び適性診断の受診の状況

⑼　運転者の写真

２　運転者が転任、退職、その他の理由により運転者でなくなった場合は、直ちに、当該運転者台帳に運

転者でなくなった年月日及び理由を記載のうえ、3年間保存するものとする。

（事故の記録）

第12条　管理者は、当該営業所に属する車両について事故が発生した場合には、これを適切に処理するとともに、次の各号に掲げる事項について記録し、事故の再発の防止を図り、運行管理上の問題点の改善及び運転者の指導監督に資するものとする。

⑴　乗務員の氏名

⑵　自動車登録番号その他、当該自動車を識別できる表示

⑶　事故の発生日時

⑷　事故の発生場所

⑸　事故の当事者（乗務員を除く。）の氏名

⑹　事故の概要（損害の程度を含む。）

⑺　事故の原因

⑻　再発防止対策

２　事故の記録は、当該営業所において3年間保存すること。

（乗務員の服務規律の徹底）

第13条　管理者は、運行の安全及び服務について、乗務員に対し機会あるごとに内容の徹底を図るものとする。

（乗務員の指導監督）

第14条　管理者は、運転者に対し輸送の安全と過積載の防止及び荷主の利便確保のために誠実にその職務を遂行するよう絶えず指導監督するものとする。　指導する場合は、国土交通大臣が告示で定めた｢貨物自動車運送事業者が事業用自動車の運転者に対して行う指導監督及び指針｣（平成13年8月20日付け国土交通省告示第1366号）に従い実施するものとする。

２　死者又は負傷者が生じた事故を引き起こした者、運転者として新たに雇いいれた者及び高齢者（６５歳）に達した者については、前項の国土交通大臣が告示で定めた指針に基づき、特別な指導を行い、かつ、国土交通大臣が認定する適性診断を受けさせるものとする。（ここでいう負傷者とは、自動車損害賠償保障法施行令第５条第２号（入院14日以上、医師の治療期間が30日以上の障害等）、第3号（入院14日以上の障害等）又は、第４号（医師の治療期間が11日以上の障害等）をいう。）

３　管理者は乗務員に対して、非常信号用具及び消火器の取扱いについて適切な指導をするものとする。

４　管理者は、乗務員に対して貨物の積載方法について次の各号に掲げる事項について適切な指導をす

　　るものとする。

　　(１)　偏荷重が生じないように積載すること。

　　(２)　貨物が運搬中に荷崩れ等により車両から落下することを防止するため、貨物にロープ又はシー

　　　　　トを掛けること等必要な措置を講ずること。

　５　管理者は、指導監督を行った日時、場所及び内容並びに指導監督を行った者及び受けた者を記録し、

　　　営業所において３年間保存しておくものとする。

（点呼の実施）

第15条　管理者は、品位と規律を保ち、厳正な点呼を行うものとする。

２　勤務その他の事情により管理者が点呼を行うことが出来ない場合は、指定された補助者が行なう者とする。

３　運行管理者は、点呼を行うべき総回数の３分の１以上を実施するものとする。

　　４　管理者は、乗務前点呼、乗務途中点呼、及び乗務後点呼において、運転者に対し酒気帯びの有無及

び健康状態について報告を求め、運行の安全を確保するために必要な指示を行うものとする。

　　５　管理者は、アルコール検知器（呼気に含まれるアルコールを検知する機器であって、国土交通大臣

が告示で定めるもの）を営業所ごとに備え、点呼時において酒気帯びの有無について確認を行う場

合には、運転者の状態を目視等で確認するほか、当該運転者の属する営業所に備えられたアルコー

ル検知器を用いて行い、次の各号に掲げる事項により常時有効に保持するものとする。

(1)　アルコール検知器のメーカーが定めた取扱説明書に基づき使用し、管理、保持するととも

　　に、定期的に故障の有無を確認し故障していないものを使用すること。

(2)　運転者の出発前に、アルコール検知器に電源が確実に入るか毎日確認すること。

(3)　運転者の出発前に、アルコール検知器に損傷がないか毎日確認すること。

(4)　確実に酒気を帯びていない者が、当該アルコール検知器を使用した場合にアルコールを検知し

　　ないか毎日（少なくとも週１回以上）確認すること。

(5)　洗口液、液体歯磨等アルコールを含有する液体又はこれを薄めたものをスプレー等により口

　　内に噴霧した上で、当該アルコール検知器を使用した場合にアルコールを検知するか毎日（

　　少なくとも週１回以上）確認すること。

６　点呼において営業所において行なうことが原則とするが、営業所と車庫が離れている場合は、

　運行管理者又は補助者を車庫に派遣して対面点呼を実施する又は、一定の要件を満たした営業

　所においては、ＩＴ点呼を実施することができる。

（乗務前点呼）

第16条　管理者は、乗務を開始しようとする運転者に対し、安全運行を確保するため、次の各号に掲げる事項により対面により乗務前の点呼を行うものとする。

　⑴　原則として個人別に行うこと。

　⑵　出発の10分程度前までに行うこと。

⑶　営業所の定められた場所で行うこと。

　⑷　日常点検の結果に基づく運行の可否の確認をすること。

⑸　アルコール検知器を用いて酒気帯びの有無を確認し酒気帯びが確認された場合、又はその旨本人

　　　　　から申し出があった場合（再検査でアルコール検知器を使用した結果、支障がない場合を除く）には、代務運転者その他運転者に代えるなど適切な処置を講じ、その者を乗務させないこと。

⑹　運転者からその日の身心状況を聴取し、並びに疾病、疲労、睡眠状況、その他安全な運転ができないおそれの有無について確認し、かつ、服装を観察して服務の適否を決定すること。

⑺　健康状態が運転に不適切と認められ、又はその旨本人から申し出があった場合には、代務運転者その他の運転者に代えるなど適切な処置を講じ、その者を乗務させないこと。

⑻　運行する道路状況、天候、作業内容、本人の勤務状況及び生活状況等を照らして安全運行に必要な指示及び注意を行うこと。

⑼　運転免許証、自動車検査証、自動車損害賠償責任保険証明書その他業務上定められた帳票、必要な携行品、金銭等の有無を確認するとともに、乗務記録、運行指示書、運行記録紙等の用紙を運転者に渡すこと。

⑽　その他進行中、運行計画に変更が生じた場合などに報告させる事項を具体的に指示しておくこと。

２　管理者は、点呼の実施結果について、次の各号に掲げる事項を具体的に記録し、管理者が交替すると

きは引継ぎを確実に行うこと。

⑴　点呼を行った者及び点呼を受けた運転者の氏名

⑵　点呼日時

⑶　点呼の方法（対面、電話等の別）

⑷　アルコール検知器の使用の有無

⑸　酒気帯びの有無

⑹　運転者の疾病、疲労、睡眠不足等の状況

⑺　乗務する車両の登録番号又は識別できる記号（社内呼び記号）

⑻　日常点検の結果に基づく運行の可否の状況

⑼　指示事項

⑽　その他必要な事項

（乗務後点呼）

第17条 管理者は、乗務を終了した運転者に対し、次の各号に掲げる事項により対面により乗務後の点呼を行うものとする。

⑴　帰着後、速やかに行うこと。

⑵　営業所の定められた場所で行うこと。

⑶　車両、道路及び運行の状況について報告を受けること。

⑷　安全運行を確保するため必要と認めた事項についての注意、指示の実施状況を確認すること。

⑸　乗務記録及び運行記録紙その他業務上定められた帳票、携行品、金銭等を提出させ、これを点検

し収受すること。

⑹　原則として翌日の勤務等について指示を与えておくこと。

(7)　他の運転者と交替した場合においては、交替運転者に対し車両、道路及び運行の状況、通告につ

　　いて報告を求めること。

２　管理者は、点呼の実施結果について、次の各号に掲げる事項を具体的に記録し、管理者が交替する

ときは引継ぎを確実に行うこと。

⑴　点呼を行った者及び点呼を受けた運転者の氏名

⑵　点呼日時

⑶　点呼の方法（対面、電話等の別）

⑷　乗務した車両の登録番号又は識別できる記号（社内呼び記号）

⑸　アルコール検知器の使用の有無

⑹　酒気帯びの有無

⑺　自動車、道路及び運行の状況

⑻　交替運転者に対する通告

⑼　その他必要な事項

３　管理者は、乗務後の点呼の結果、運転者又は整備管理者に関係のある事項については、それぞれの

関係者に通知又は適切な指示をし、特に異例な事項は上長に報告して確実に処理するものとする。

（行先地点呼）

第18条　管理者は、乗務の開始地又は終了地が営業所以外の地であるため、乗務前又は乗務後の点呼、報告及び指示を営業所で行えない場合は、電話その他の方法により行うものとする。

（中間点呼）

第19条　管理者は、乗務前及び乗務後の点呼のいずれも対面で行うことができない乗務を行う運転者に対し、当該点呼のほかに、当該乗務の途中において少なくとも１回電話その他の方法により点呼を行い、次の各号に掲げる事項について報告を求め、車両の運行の安全を確保するために必要な指示を行うものとする。

　　　⑴　アルコール検知器の使用の有無及び酒気帯びの有無

　　　(2)　疾病、疲労、睡眠状況等その他の理由により安全な運転をすることが出来ないおそれの有無

　２　管理者は、点呼の実施結果について、次に各号に掲げる事項を具体的に記録し、管理者が交替する

ときは引継ぎを確実に行うこと。

⑴　点呼を行った者及び点呼を受けた運転者の氏名

⑵　点呼日時

⑶　点呼の方法

⑷　アルコール検知器の使用の有無

⑸　酒気帯びの有無

⑹　運転者の疾病、疲労、睡眠不足等の状況

⑺　乗務する車両の登録番号又は識別できる記号（社内呼び記号）

⑻　指示事項

(9)　その他必要な事項

　（点呼の記録の保存）

第20条　管理者は、点呼の実施結果の記録を、記載の日から１年間保存しておくものとする。

　（過労防止の措置）

第21条　管理者は、常に乗務員の健康状態、作業状態を把握し、過労にならないようにするため、就業規則等で定められた勤務時間及び乗務時間の範囲内において運転者の乗務割を作成し、これに基づき車両に乗務させるものとする。

なお、乗務員の勤務時間及び乗務時間は、休憩又は睡眠のための時間及び勤務が終了した後の休息のための時間が十分確保されるものであり、国土交通大臣が告示で定める基準（平成13年8月20日付け告示第1365号）に適合するものでなければならないものとする。

２　管理者は、乗務員の休憩、睡眠に必要な休養施設を管理し、衛生、環境に留意する等、常に清潔に

保っておくものとする。

３　管理者は、健康状態の把握に努め、疾病、疲労、飲酒、酒気帯び、覚せい剤の服用、異常な感情の

高ぶり及び睡眠不足等により安全な運転をし、又はその補助をすることができないおそれがある乗

務員を車両に乗務させてはならないものとする。

４　管理者は、長距離輸送、夜間運行等のため交替する運転者の乗務に係る道路及び運行の状況につい

て通告し、配置を指定したときは、運転者に対して運転を交替する場所又は時間を具体的に指示す

るものとする。なお、交替運転者の配置は別に定めるものとする。

５　管理者は、乗務員に対して会社の定める運行途中の休憩、睡眠等の場所及びそれぞれの時間を指示

するものとする。

６　特別積合せ貨物運送を行う一般貨物自動車運送事業者の管理者は、起点から終点までの距離が100

ｷﾛﾒｰﾄﾙを超える運行系統ごとに、あらかじめ調査を行い、過労防止を勘案して次の各号に掲げる事

項を内容とした乗務に関する基準（以下｢乗務基準｣という。）を定め、かつ、乗務基準の遵守につ

いて乗務員に対する適切な指導監督をするものとする。

⑴　主な地点間の運転時間及び平均速度

⑵　休憩又は睡眠をする地点及び時間

⑶　交替運転者を配置したときはその交替する地点及び時間

７　運転者が｢一の運行｣における最初の勤務を開始して最後の勤務を終了するまでの時間（ただし、フェリーに乗船した場合の休息期間を除く。）は144時間を超えないこと。

（乗務記録）

第22条　管理者は、乗務前点呼の際に運転者に対して、乗務の記録のための用紙を交付し、次の各号に掲げる事項を記録させ、乗務後点呼の際にこれを提出させるものとする。ただし、特別積合せ貨物運送の場合であって乗務基準のとおり運行した場合は、⑶から⑸については、乗務基準どおりに運行した旨を記入すればよいものとする。

⑴　運転者の氏名

⑵　乗務した車両の登録番号又はその他識別できる記号（社内呼び記号等）

⑶　乗務の開始及び終了の地点及び日時並びに主な経過地点及び乗務した距離

⑷　運転を交替した場合は、その地点及び日時

⑸　休憩又は睡眠をした場合は、その地点及び場所

⑹　車両総重量が８トン以上又は最大積載量が５トン以上の車両に乗務した場合は、貨物の重量又は

　　貨物の個数、貨物の荷台等への積付状況等

　イ　貨物の積載状況

　ロ　荷主の都合により集貨又は配達を行った地点（以下「集貨地点等」という。）で待機した場合は、

　　　次に掲げる事項（待機時間が３０分未満の場合は記録の省略可）

　　(1)　集貨地点等

　　(2)　集貨地点等への到着の日時を荷主から指定された場合にあっては、当該日時

　　(3)　集貨地点等に到着した日時

　　(4)　集貨地点等における積込み又は取卸しの開始及び終了の日時

　　(5)　集貨地点等で、貨物の荷造り、仕分その他の貨物自動車運送事業に付帯する業務（以下「付

　　　　帯業務」という。）を実施した場合にあっては、付帯業務の開始及び終了の日時

　　(6)　集貨地点等から出発した日時

　ハ　集貨地点等で積込み若しくは取卸し又は付帯業務（以下「荷役作業等」という。）を実施した場

　　　合（荷主との契約書に実施した荷役作業等の全てが明記されている場合にあっては、当該荷役

　　　作業等に要した時間が一時間以上である場合に限る。）にあっては、次に掲げる事項

　　(1)　集貨地点等

　　(2)　荷役作業等の内容並びに開始及び終了の日時

　　(3)　荷主が(１)及び(２)に掲げる事項について確認した場合にあっては、その旨

　　(4)　(１)及び(２)に掲げる事項について荷主の確認が得られなかった場合にあっては、その旨

⑺　道路交通法第６７条第２項に規定する交通事故もしくは自動車事故報告規則第２条に規定する事

故又は著しい運行の遅延、その他の異常な状態が発生した場合には、その概要及び原因

⑻　その他記録するよう指示した事項

２　管理者は、前項の記録（以下「乗務記録」という。）の内容を検討し、運転者に対し必要な指示を

　　指導を行うものとする。

３　運行途中において、運行指示書の携行が必要な運行形態を行うことになった場合には、その指示

内容（日時・場所・指示者名等）を乗務記録に記録させるものとする。

４　管理者は、乗務記録を記録の日から1年間保存しておくものとする。

５　乗務記録の記録・保存は、国土交通省が規定する方法により、書面による記録・保存に代えて電磁

　　的方法による記録・保存を行うことができる。

（運行記録計による記録）

第23条　次に揚げる事業用自動車に係る運転者の乗務について、当該事業用自動車の瞬間速度、運行距離及び運行時間を、道路運送車両の保安基準第４８条の２第２項の基準に適合する運行記録計により記録するものとする。

⑴　車両総重量が７トン以上又は最大積載量が４トン以上の普通自動車である事業用自動車

⑵　前号の事業用自動車に該当する被けん引自動車をけん引するけん引自動車である事業用自動車

⑶　前２号に掲げる事業用自動車のほか、特別積合せ貨物運送に係る運行系統に配置する事業用自

動車

２　管理者は、前項各号に規定する車両に運転者が乗務する場合は、乗務前点呼の際に前条の乗務記録の用紙のほか、運行記録計の記録用紙（以下「記録用紙」という。）を交付し、乗務後点呼の際に記録した用紙を提出させるものとする。

３　記録用紙の着脱は運転者が行い、運行管理者はこれを管理するものとする。

４　管理者は、法令により運行記録計による記録が義務付けられている車両であって、記録計の故障によ

り記録ができない車両を運行させてはならないものとする。

５　記録用紙には、自動記録のほか、次の各号に掲げる事項を記入させることとする。

⑴　運転者の氏名

⑵　車両の登録番号又は識別できる記号（社内呼び記号等）

⑶　乗務の開始及び終了年月日

⑷　その他必要事項

６　運行記録計の時計の調整は、出庫前の日常点検の際に運転者が行うものとする。

７　管理者は記録紙により運行状況を確認し輸送の安全に関し、注意を要する者については、当該運転者に対し、自らその記録を確認させ、適切な運行を確保するよう具体的な指導に努め、指導した事項を

明記しておくこととする。

８　管理者は、記録状況又は運転者の報告により、常に記録が正しくされるよう留意するとともに、故障又は精度不良の場合は、直ちに整備管理者に連絡し、整備するものとする。

９　管理者は、記録用紙を記録の日から１年間保存しておくものとする。

（運行指示書による指示等）

第24条　管理者は、乗務前及び乗務後の点呼のいずれも対面でおこなうことができない乗務の運行ごとに、次の各号に掲げる事項を記載した運行指示書を作成し、これにより運転者に対し適切な指示を行い、及びこれを運転者に携行させるものとする。

⑴　運行の開始及び終了の地点及び日時

⑵　乗務員の氏名

⑶　運行の経路並びに主な経過地点における発車および到着の日時

⑷　運行に際して注意を要する箇所の位置

⑸　乗務員の休憩地点および休憩時間（休憩がある場合に限る。）

⑹　乗務員の運転又は業務の交替の地点（運転又は業務の交替がある場合に限る。）

⑺　その他運行の安全を確保するために必要な事項

２　管理者は、前項に規定する運行の途中において、同項第1号又は第3号に掲げる事項に変更が生じた場合には、運行指示書の写しに該当変更の内容（当該変更に伴い、同項第4号から第7号までに掲げる事項に生じた変更の内容を含む。以下同じ。）を記載し、これにより運転者に対し電話その他の方法により当該変更の内容について適切な指示を行い、及び当該運転者が携行している運行指示書に当該変更の内容を記載させるものとする。

３　管理者は、第1項に規定する運行以外の運行途中において、運転者に貨物自動車運送事業輸送安全規則第7条第3項に規定する乗務を行わせることとなった場合には、当該乗務以後の運行について、第1項各号に掲げる事項を記載した運行指示書を作成し、及びこれにより当該運転者に対し電話その他の方法により適切な指示を行うものとする。

４　管理者は、運行指示書及びその写しを運行の終了の日から１年間保存するものとする。

（事故発生時の措置）

第25条　管理者は、乗務員に対して車両の運行中事故が発生した場合に対処するため、次の各号に掲げる事項について、周知徹底しておくものとする。

⑴　負傷者のあるときは、速やかに応急手当その他必要な措置を講ずること。

⑵　事故の拡大防止の措置を講ずること。

⑶　警察官に報告し、指示を受けること。

⑷　管理者に緊急連絡し、指示を受けること。

２　管理者は、運転者その他の者から事故が発生した旨の連絡を受けたときは、次の各号に掲げる事項により措置するものとする。

⑴　直ちに事故の続発の防止、負傷者の救護等必要な措置を講ずるよう指示すること。

⑵　軽微な事故を除き、現場に急行する等発生状況及び原因等を調査すること。

⑶　できる限り目撃者、相手方の意見を聴取すること。

⑷　現場において貨物の運送の継続又は返送の措置をするとともに、代替輸送が必要なときは、その

　　措置を講ずること。

⑸　貨物の保全を期すること。

⑹　重大な事故のときは直ちに上長に報告し、その措置について指示を受けること。

⑺　関係者と折衝し、以降の措置について打ち合わせること。

３　管理者は、前項各号の措置を速やかに講ずるために、事故発生の場所に最も近い営業所に応援を求めることができるものとする。

４　管理者は、事故発生の都度、自動車事故報告規則に基づく事故に該当する場合は30日以内に事故報告するものとする。また、速報に該当するものは24時間以内に事故速報を電話等により運輸支局長等に対して行うものとする。

（事故防止対策）

第26条　管理者は、事故防止対策を講ずるために、次の各号に掲げる事項を処理するものとする。

⑴　事故（軽微な事故を含む。）については、その内容、原因等を記録して資料（カラー写真等）を整

理しておくこと。

⑵　道路、交通、事故状況等に関する情報（ラジオ、テレビによる情報、事故統計、事故警報その他）

を整理し、速やかに事故防止対策を樹立するものとする。

⑶　管理者は乗務員等に対して、自動車事故報告規則第5条の事故警報が発令された場合には、その警報による事故防止対策の措置を講じること。

（異常気象時の措置）

第27条　管理者は、異常気象時等について、次の各号に掲げる事項に留意し、万全の対策を講ずるものとする。

⑴　降雨、降雪、凍結等により安全運行の確保に支障が生ずるおそれのある場合に対処するための具

体的な措置要領を定め、乗務員に徹底しておくこと。

⑵　気象状況、道路状況を迅速、確実に把握できるよう気象台、警察、消防機関等との連絡体制を確

　　立しておくこと。

⑶　ラジオ、テレビ等の気象情報に常に注意し、状況により運行の継続、待機、中止等、所定の措置

を講ずること。

⑷　運行車両との緊急連絡体制を確立しておくこと。

（研　修）

第28条　管理者及び補助者は、その職務遂行上、必要な知識及び実務について、国土交通大臣が認定した基礎講習又は一般講習及び社内研修を受けなければならない。

２　管理者及び補助者は、日常の職務に必要な次の各号に掲げる事項の知識、技能の修得に努めなければならない。

⑴　車両の運転に関すること。

⑵　車両の構造・装置及び取扱い等に関すること。

⑶　貨物の積載及び固縛方法等に関すること。

⑷　積載物品の性状、特に、危険・有害物の物理・化学的性状及び取扱い等に関すること。

⑸　運転者の健康管理に関すること。

⑹　事故の場合の応急救助、二次事故の防止措置に関すること。

⑺　道路の構造及び簡単な地質、地盤の強度に関すること。

⑻　運行計画作成の知識、技能に関すること。

⑼　気象情報に関すること。

⑽　非常信号用具、消火器等車両の備え付け器具の取扱いに関すること。

⑾　運転者の運転適性診断に関すること。

⑿　道路交通関係の法令に関すること。

⒀　自動車損害賠償任意保険に関すること。

⒁　その他必要な知識（関係法令等）

（危険物等の輸送上の措置）

第29条　管理者は、輸送貨物が危険、有害物、放射性物質等である場合には、関係法令等によるほか、次の各号に掲げる事項により事故防止の措置を講ずるものとする。

⑴　乗務員は危険物等の取扱いの資格のある者のうちから割当て、出発前に経路、積載量、積載方法

及び運行速度等について安全運行を考慮のうえ注意を与え、当該積載物の取扱方法等を記載した

書類がある場合にはこれを携帯させること。

⑵　配車に当たっては整備管理者に連絡をとり、車両構造が道路運送車両の保安基準等の規定に適合

しているか否かを確認するほか、輸送上の危険防止の措置を講ずること。

（保安基準緩和車両等の運行上の措置）

第30条　管理者は、保安基準緩和認定車両及び制限外積載許可車両の運行については、次の各号に掲げる事項について措置を講ずること。

⑴　運行に際しては、必要に応じて関係官公庁の許可を受けるとともに、運行に際して条件が付され

ている場合は、これを遵守するよう指示すること。

⑵　前号の許可を受けた運行経路、運行時間、速度制限等を指示すること。

⑶　運行経路にあるトンネル、橋、ガード等の構造及び重量、高さの限界等を事前に調査し、安全運

　　行に関する措置を講ずるとともに、これを指示すること。

附　則

（実施の期日）

１本規則は、　　　 年　　月　　日から実施する。

|  |  |
| --- | --- |
| **別　表** | **運行管理者の選任者数（第2条関係）** |

|  |  |
| --- | --- |
| 事業用自動車の車両数（被けん引車を除く） | 運行管理者数 |
| ２９両まで　　　　　　　　（運行車+運行車以外） | １人以上 |
| ３０両～５９両まで　　　　（運行車+運行車以外） | ２人以上 |
| ６０両～８９両まで　　　　（運行車+運行車以外） | ３人以上 |
| ９０両から１１９両まで　　（運行車+運行車以外） | ４人以上 |
| １２０両～１４９両まで　　　（運行車+運行車以外） | ５人以上 |
| １５０両～１７９両まで　　　（運行車+運行車以外） | ６人以上 |
| １８０両～２０９両まで　　　（運行車+運行車以外） | ７人以上 |
| ２１０両～２３９両まで　　　（運行車+運行車以外） | ８人以上 |

以下、車両数が３０両増すごとに、運行管理者１名を加算する。

（注）運行車とは特別積合せ貨物運送に供する事業用自動車をいう。

|  |  |
| --- | --- |
| **別　添** | **運行管理者の組織図（第３条関係）** |

|  |
| --- |
| （組織図　例）社　長 ――― 担当役員 ――― 運輸担当課長 ――― 係長 ――― 主任 ｜――― 営業所長 ――― 統括運行管理者 ―――｜　　　　　　　　 　｜　　　　　　　｜――― 営業課長　　　　　　　― 運行管理者 ―― 補助者　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 ｜　　　　｜　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 ―――――― 運転者 |

|  |
| --- |
| 〔　組　織　図　〕 |
| **Ⅰ．点呼実施要領** | **運行管理規程第14条～第20条の参考資料** |

**心　得**

点呼は運行の安全を確保するための重要なる事項であり、この実施に当たっては、その主旨をよく認識し厳正に行い、成果をあげることに努めなければならない。また乗務に当たっては、諸達示及び関係法規を遵守するとともに、交通道徳の実践につとめ、事故防止の徹底を図り、安全輸送の遂行に努めることが大切である。

したがって、乗務前点呼においては、運行上必要な指示、注意事項等の徹底、確認を完全に行い、また乗務後点呼における報告は、運行管理上の措置を講ずる重要な事項であるので、乗務員は運行管理者等と対面して詳細、かつ、確実に報告・確認を行わなければならない。

１．点 呼 執 行 者　 運行管理又は補助者

２．執 行 場 所　　営業所内の所定の場所

３．点呼を行う時刻

⑴　乗務前点呼　 乗務開始10分前

⑵　乗務後点呼　 乗務終了後速やかに

⑶　そ　の　他　 所属営業所へ出頭することなく、又は隔離された位置より出庫する場合、隔離された位置にて乗務を終了する場合は、電話、その他の方法を定め点呼を行う。

４．点呼を行う事項

|  |  |
| --- | --- |
| 乗　務　前　点　呼 | 乗　務　後　点　呼 |
| 一般指示、注意事項の伝達並びに確認健康状態の確認（疾病、疲労、飲酒、睡眠等）服装の確認車両状況の確認非常信号用具の確認携行品の確認時計調整の確認個別指示、注意事項の伝達並びに確認路線別指示、注意事項の伝達並びに確認気象に対する注意事項の伝達並びに確認その他必要事項 | 健康状態の報告並びに確認車両状況の報告並びに確認運行状況の報告並びに確認道路状況の方向並びに確認事故・苦情の報告並びに確認遺失物の報告並びに確認翌日勤務の指示並びに確認終業報告書（運転日報）の提出並びに受理運行記録計の記録紙の提出並びに受理その他必要事項 |

（注）個別指示、注意事項は乗務員の経験・技量、能力・素質、性格上の特性、事故歴等により、これに適応した指示、注意を重点とする。

|  |  |
| --- | --- |
| **Ⅰ－２．点呼実施の例**  | **運行管理規程第14条～20条の参考資料** |
| 　　　　　　　　　◆　点呼の３つの目的　　　　　　　　●　ドライバーの心とからだの状態や業務内容をつかむため　　　　　　　　●　ドライバーへの指示を徹底するため　　　　　　　　●　ドライバーの安全を確保するため |
| **＜乗務前対面点呼＞** |
| 実施項目 | 内　　　　　　容 |
| 健康状態の把握　　　　 | ・疾病や疲労、飲酒、睡眠などについてチェック　（声をかけ、顔色や目の色などを観察しましょう）・「アルコール検知器」でアルコールの測定　※飲酒反応も含め、０.０１ｍｇ以上の場合、１５分後に再計測する　　　⇒値が変わらなければ乗務禁止！ |
| 携行品の点検　 | ・運転免許証（有効期限・記載内容）・技能資格証など |
| 車両の状況確認　　　　 | ・日常点検の結果報告　（当日の点検結果、前日の異常個所の有無とその措置）・荷物の積載状況（荷姿・数量・その他）・非常信号用具（有効期限）・業務特有の携行品　例：消火器、緊急備品、荷役機器 |
| 服装点検※指差呼称で行うこと　　　　 | ドライバー同士または執行者と向かい合い、２人１組で実施・「ヘルメット、ヨシ！」・「あご紐、ヨシ！」・「服装、ヨシ！」・「足元（安全靴）、ヨシ！」・２人のうち１人ずつ「回れ右」を行い、「後ろ、ヨシ！」 |
| 指示・連絡　　 | ・道路情報　例：運行ルートの危険ポイント、渋滞状況・気象状況　例：雨、風、雪、凍結・個々への指示、連絡　例：お客様の庭先情報、職場での連絡指示事項 |
| その他　 | ・態度訓練など必要に応じて実施　例：挨拶訓練「おはようございます」「ありがとうございます」 |
| 見送り・出発　　 | ドライバーと向き合う・執行者「今日も一日安全に、行ってらっしゃい！」　　・ドライバー「安全運転で、行ってきます！」 |
|  |  |
| **＜乗務後対面点呼＞** |  |
| 報告・確認すること | 内　　　　　　容 |
| 健康状態の把握 | ・疾病や疲労、飲酒などについてチェック |
| 　 | 　（無事の帰社をねぎらい、声をかけ、顔色や目の色などを観察します） |
| 　 | ・「アルコール検知器」でアルコールの測定 |
| 車両状況 | ・車両の異常箇所の有無、その措置、申し送りなどを確認 |
| 運行状況、道路状況 | ・それぞれ異常箇所の有無　※情報を吸い上げ、共有するのが目的です |
| 帳票類の提出 | ・運行票、日報、ＥＴＣカードなど |
| 　 | ・運行記録シート　※デジタコ関連書類を含む |
| その他 | ・荷主情報、交代運転者への通告内容など |
| 次回の業務指示 | ・出勤日時、行き先など |
| 　 | 　 |

※　乗務途中点呼（電話等）が必要な運行の場合は、「アルコール検知器」を携行させ、点呼の都度酒気帯びの有無の確認も必要です。

|  |  |
| --- | --- |
| **Ⅱ．勤務時間及び乗務時間** | **運行管理規程第22条の参考資料** |

(運転者の拘束時間等)

第1条　運転者の拘束時間、休憩時間及び運転時間は、次に定めるところによるものとする。

⑴　拘束時間は、１箇月について２８４時間を超えないものとする。

ただし、労使協定があるときは、１年のうち６箇月までは、１年間について拘束時間が３，４００時間を超えない範囲内において、３１０時間まで延長することができる。

⑵　１日についての拘束時間は、１３時間を超えないものとし、当該拘束時間を延長する場合であっても最大拘束時間は１５時間とすること。

⑶　勤務終了後、継続９時間以上休息期間を与えること。

⑷　運転時間は、２日（始業時刻から起算して４８時間をいう）を平均し１日当たり９時間、２週間を平均し１週間当たり４４時間を超えないものとする。

⑸　連続運転時間（１回が連続１０分以上で、かつ、合計が３０分以上の運転の中断することなく連続して運転する時間をいう。）は、４時間を超えないものとすること。

（運転者の拘束時間及び休息期間の特例）

第２条　業務の必要上、勤務の終了後、継続８時間以上の休息期間を与えることが困難な場合は、当分の間、一定期間における全勤務回数の２分の１を限度に、休息期間を拘束時間の直後に分割して与えることができるものとする。この場合において、分割された休息期間は、１日（始業時刻から起算して２４時間をいう。）において１回当たり継続３時間以上、２分割に場合は合計１０時間以上でなければならない。また３分割の場合は休息期間が合計１２時間以上でなければならない。ただし、運転者が勤務の中途においてフェリーに２時間を超えて乗船する場合には適用しないものとする。

２　運転者が同時に１台の自動車に２人以上乗務する場合（車両内に身体を伸ばして休息することができる設備がある場合に限る。）は、第１条⑵前段の規定にかかわらず最大拘束時間を２０時間まで延長することができるものとし、第１条⑵前段の規定は、適用しないものとする。

また、休息期間は第１条⑶の規定にかかわらず４時間まで短縮することができる。

３　業務の必要上やむを得ない場合は、当分の間、第１条⑴から⑶までの規定並びに第２条第１項及び第２項の規定にかかわらず、次の条件の下で隔日勤務に就かせることができるものとする。

⑴　２暦日における拘束時間は、２１時間を超えてはならないものとする。

ただし、事業場内に仮眠施設又は事業者が確保した同種の施設において、夜間に４時間以上の仮眠時間を与える場合には、２週間について３回を限度に、この２暦日における拘束時間を２４時間まで延長することができるものとする。

　　　　　この場合においても２週間における総拘束時間は１２６時間（21時間×6勤務）を超えることができないものとする。

⑵　勤務終了後、継続20時間以上の休息時間を与えなければならないものとする。

４　運転者が勤務の途中においてフェリーに乗船する場合における拘束時間及び休息時間は、次のとおり扱うものとする。

⑴　フェリー乗船時間（a）のうち２時間（フェリー乗船時間が２時間未満の場合は、その時間）について拘束時間として取り扱い、その他の時間については休息時間として取り扱うものとする。

⑵　２人乗務の場合は第２条第２項、隔日勤務の場合は第２条第３項⑵の規定により与え　　　　　るべき休息期間の時間から減ずることができるものとする。ただし、その場においても、減算後の休息期間（ｃ）は、２人乗務の場合を除き、フェリー下船時刻から勤務終了時刻までの時間（ｂ）の２分の１を下回ってはならないものとする。

　　　　　　　　　　 ／ ⌒ ＼　　　 ／ ⌒ ＼　　　　　 ／ ⌒ ＼

／　　ａ　　＼　／　　ｂ 　 ＼　　　 ／ 　ｃ ＼

｜　　　　　　　｜　　 　　　　　 ｜　　　　　　　　｜　　　　　　　　　｜

　　　―――――――――――――――――――――――――――――――――――

A B C D

勤務の　　　　　　フェリー　　　　　フェリー　　　　　勤務の　　　　　　　次の勤務の

開始時間　　　　　乗船時間　　　　　下船時間　　　　　終了時刻　　　　　　開始時刻

（休息期間の開始時刻）　（休息期間の

終了時刻）

（交替運転者の配置）

第３条　運転者が長距離運転、夜間運転等のため、第１条第１項に規定された条件を超えて引き続き運転する場合は、交替運転者を配置するものとする。

（例）①拘束時間が１５時間を超える場合

②運転時間が２日を平均し１日９時間を超える場合

③連続運転時間が４時間

２　交替運転者を配置する場合は、次の要領により措置するものとする。

⑴　運行する走行キロ、運転時間（昼間、夜間）、休憩時間を十分考慮のうえ、交替地点を定めること。

⑵　交替運転者の配置に当たっては点呼記録、乗務記録等に明記し、乗務する運転者に徹底すること。

⑶　運転者が乗務を終了して交替するときは、交替運転者に対し、車両、積荷、経路及び運行の状況について通知し、交替して乗務を開始しようとする者は、前記の通告を受け、かつ車両のかじ取り装置、制動装置、その他重要な装置の機能について点検すること。

|  |  |
| --- | --- |
| **Ⅲ．運行記録計の取扱要領** | **運行管理規程第23条の関連規定** |

（記録用紙の交付等）

第１条　運行管理者は、記録用紙を乗務前点呼の際に運転者に手渡し、乗務後点呼の際に記録した用紙を受け取ること。

（記録用紙の着脱等）

第２条　記録用紙の着脱は運転者が行い、運行管理者はこれを管理する。

（記録用紙へ記入すべき事項）

第３条　記録用紙には、自動記録のほか、次の事項を記入させること。

⑴　運転者の氏名

⑵　車両の登録番号記録又は識別できる記号（社内呼び記号等）

⑶　乗務の開始及び終了年月日

⑷　その他必要事項

（時計の調節）

第４条　運行記録計の時計調整は、出庫前の日常点検の際に運転者がおこなう。

（記録状況の検討及び解析）

第５条　運行管理者は、運行前に指示した事項が確実に行われたか否かを、記録紙から判断して検討すること。

⑴　速度については、瞬間速度のほか、走行距離、運行時間により検討する。

⑵　勤務時間、乗務時間（運転時間）、荷役時間、手待時間、休憩時間、睡眠時間等を正確に把握する。

⑶　運転方法の適否又は運転技術の良否を判定すること。

⑷　運転者の勤務（乗務）実績、輸送統計等の資料作成に活用する。

（注意を要する者の取扱い）

２　前項により運行状況を検討し運行上又は運転上又は運転上に関し、注意を要する者については、運行管理者は、速やかに当該運転者に対して、自らその記録を確認させ、適正な安全運転を確保するよう具体的な指導に努めること。この場合、指導した事項を明記しておくこと。

（記録の保存）

第６条　記録の保存については、運転者別に１ヶ月ごとに取りまとめ、これを１年以上保存しなければならない。

（保守管理）

第７条　運行管理者は、記録状況又は運転者の報告により、常に記録が正しくされるよう留意することとともに、故障又は精度不良の場合は、直ちに整備管理者に連絡し、整備すること。

２　整備管理者は、機器製作者の示す基準に従い、記録計の点検整備を実施、保守管理に努めること。

|  |  |
| --- | --- |
| **Ⅳ．輸送安全規則の解釈及び運用について** | **運行管理規程第25条の参考資料** |

第9条の3　運行指示書による指示（別紙２参照）

本条の主旨は、長時間の運行をする場合及び長期間の運行をする中で、求車求貨システム等を活用して行き先地で随時帰り荷を獲得する等により当初の運行計画が変更される場合には、運転者に対する運行指示書による指示という形態をとるとともに、その内容が変更される場合には事業者と運転者の双方が変更内容を記載することにより運行経路や運行の安全確保上必要な事項について運転者への確実な伝達を期そうとするものである。

１　第1項及び第2項の場合には、運行中は運転者が運行指示書を携行するとともに、営業所にその写しを備え置き、運行終了後は運行指示書及びその写しを営業所において保存しなければならない。

また、第3項の運行の場合には、運転者が乗務等の記録に指示内容を記録するとともに、営業所に作成した運行指示書を備え置き、運行終了後は乗務等の記録及び運行指示書を営業所において保存しなければならない。

２　第2項の運行の場合には運転者に対して指示を行った日時及運行管理者の氏名についても運行指示書及びその写しに記載させること。

また、第3項の運行の場合には、運行指示書及び乗務等の記録に同時に記載させること。

３　運行指示書と異なる運行を行う場合には、原則として、第2項の規定に基づき運行管理者の指示によって行わせること。

（別紙２）

**中間点呼及び運行指示書について**

●運行指示書の不要な運行

⑴乗務前及び乗務後、いずれも対面により点呼を行う事ができる運行。

―――――　　　　　　　　　―――――

｜　１日目　｜　　　　　　　｜　２日目　｜

所属営業所　　目的地①　　　目的地②　　所属営業所

乗務前点呼　　乗務後点呼　　乗務前点呼　乗務後点呼

（対面）　　　　（電話）　　（電話）　　　（対面）

●中間点呼及び運行指示書の必要な運行

（１）出発時に運行指示書を2部作成、運転者に1部携行させる。1部を営業所に置く。

（２）運行2日目、乗務前及び乗務後のいずれもが対面により点呼を行う事ができない為、運行の途中において少なくとも、その他の方法をもって中間点呼を受けなければならない。

―――――　　　　　　　　　――――――――――　　　　　　　―――――

｜　１日目　｜　　　　　　　｜　　　２日目　　　　｜　　　　　｜　３日目　｜

所属営業所　目的地①　　　　目的地①　　　　　　　　目的地②　　目的地②　　所属営業所

乗務前点呼　乗務後点呼　　乗務前点呼　【中間点呼】　乗務後点呼　乗務前点呼　乗務後点呼

（対面）　　　（電話）　　　（電話）　　（電話）　　（電話）　　（電話）　　（対面）

●運行指示書の携行不要な運行であったが、運行が途中で変更になった場合

運行指示書を運行の途中に作成、指示等の事項は乗務記録簿に記載させる。

（１）当初の運行計画は目的地①より所属営業所に戻る運行の為、運行指示書の携行は不要である。

・乗務前及び乗務後、いずれも対面により点呼を行うことができる運行。

（２）目的地①にて運行の変更があり目的地②を経て所属営業所に戻る運行となった。

変更の時点で運行指示書を作成し営業所に備え置き、運転者は変更、指示等の事由を乗務記録簿に記録する。

―――――　　　　　　　　　――――――　　　　　　　　　　　　　―――――

｜　１日目　｜　　　　　　　｜　　２日目　｜　　　　　　　　　　　｜　３日目　｜

所属営業所　目的地①　　　　目的地①　　　所属営業所　　目的地②　　目的地②　　所属営業所

乗務前点呼　乗務後点呼　　乗務前点呼　　　乗務後点呼　　乗務後点呼　乗務前点呼　乗務後点呼

（対面）　　　（電話）　　　（電話）　　　　（対面）　　（電話）　（電話）　　　（対面）

　　　　　　　　　　　　　　　 ￤ 　　￤

運行の変更➞￤ 　　￤

運行指示書 ￤ 　　￤

を作成する ―――――【中間点呼】―――

（電話）

（安全規則第9条の３第２項）

●事業者は、運転者が運行指示書を携行した乗務の途中において、運行の開始、終了の地点及び日時又は運行の経路、主な経過地における発車及び到着の日時に変更が生じた場合には、運行指示書の写しに当該変更の内容（当該変更に伴い、運行に際して注意を要する箇所の位置、乗務員の休憩地点及び休憩時間、乗務員の運転又は業務の交替地点、その他運行の安全を確保するために必要な事項に生じた変更の内容を含む。）を記載し、かつ、これにより運転者に対し電話その他の方法により当該変更の内容について適切な指示を行うとともに、当該運手者が携行している運行指示書に当該変更の内容を記載させること。

（安全規則第9条の３第３項）

●事業者は、乗務途中の運転者に対し、運行指示の携行が必要となる乗務を行わせることになった場合には、当該乗務以後の運行について運行指示書を作成し、これにより当該運転者に対し、電話その他の方法により適切な指示を行うこと。

（安全規則第9条の３第4項）

●事業者は、運行管理指示書及びその写しを運行終了日から1年間保存すること。

|  |  |
| --- | --- |
| **Ⅴ．異常気象時等の対処及び措置要領** | **運行管理規程第28条の参考資料** |

（情報の収集）

第1条　運行管理者は、運行経路の競う状況を把握し、運行の安全を確保するため、ラジオ、テレビ、道路交通センター等からの情報の収集に努めること。

（緊急連絡体制）

第2条　運行管理者は、運行計画に基づき、あらかじめ運行経路の主な地点に緊急連絡場所を設け、緊急時における運行管理者と乗務員とが速やかに連絡でき、若しくは必要な指示、命令のできる体制を整備するとともに、これを乗務員に周知しておくこと。

（運行の中止、待避等）

第3条　乗務員は、次の事態となった場合で、道路の状況等により運行することが危険と認められたときは、運行の中止又は待避する等安全の確保に努めること。

⑴風速２０メートル以上となった場合

⑵濃霧等により、視界が２０メートル以下となった場合

⑶その他運行が危険であると思われる場合

（異常気象の時の措置記録等）

第４条　乗務員は最寄りの連絡所からの電話等により、その状況、自分のとった処置等を運行管理に報告するとともに、運行に当たっての適切な指示を受けること。

２　運行管理者は、乗務員からの報告を受け、又は指示した事項について詳細に記録しておくこと。

３　運行管理者は、乗務員からの報告をまつまでもなく、緊急連絡所の活用を図り、又は巡回等を実施して運行の実態を的確に把握すること。

４　運行管理者は、記録を作成のうえ営業所に掲示し、他の乗務員に周知させると共に、必要に応じて荷主に連絡すること。

**参考事項**　　　（別表１）

⑴　視程２０ｍ以下、風速２０ｍ以上のときは運行を中止すること等、又は積雪、氷結時等における運行規定等について定める。

⑵　物体の状態変化による風速の判定方法

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 風力階級 | 物体（陸上）の状態風速（ｍ/ｓ） | 風速（ｍ/ｓ） |
| ０ | 静穏　煙はまっすぐ昇る。 | 0.0～ 0.3未満 |
| １ | 風向は煙がなびくのでわかるが風見（風向計）には感じない | 0.3～ 1.6未満 |
| ２ | 顔に風を感じる　木の葉が動く。　風見も動き出す。 | 1.6～ 3.4未満 |
| ３ | 木の葉が細い小枝が絶えず動く。　軽い旗が開く。 | 3.4～ 5.5未満 |
| ４ | 砂ほこりが立ち、紙片がまい上がる。小枝が動く | 5.5～ 8.0未満 |
| ５ | 葉のあるかん木がゆれはじめる。池や沼の水面に波がしらが立つ。 | 8.0～10.8未満 |
| ６ | 大枝が動く。電線がなる。傘はさしにくい | 10.8～13.9未満 |
| ７ | 樹木全体がゆれる。風に向かって歩きにくい。 | 13.9～17.2未満 |
| ８ | 小枝が折れる。風に向かって歩けない。 | 17.2～20.8未満 |
| ９ | 人家に少し損害が起こる。（煙突が倒れる、瓦がはがれる。） | 20.8～24.5未満 |
| １０ | 陸地の内部ではめずらしい。樹木が根こそぎになる。人家に大損害が起る。 | 24.5～28.5未満 |
| １１ | めったに起こらない。広い範囲の破壊を伴う。 | 28.5～32.5未満 |
| １２ | ― | 32.7～以上 |

**気象注意報の種類とその基準**

|  |  |
| --- | --- |
| 種　　　類 | 基　　　　　　　　　　　　　　　　　　準 |
| 強風注意報 | 平均風速が毎秒１０ｍを超え被害が予想されるもの |
| 大雨注意報 | 日雨量が５０ｍｍを超え被害が予想されるもの |
| 大雪注意報 | 降雪量が１０ｃｍ以上で被害が予想されるもの |
| 雷雨注意報 | 厳しい雷雨が起こり落雷のおそれがあるもの |
| 異常乾燥注意報 | 空気が異常に乾燥し火災の危険が大きいもの |
| 濃霧注意報 | 濃霧のため交通機関に著しい支障のおそれがあるもの |

これ以上に風雨（強風+大雨）、風雪（強風＋大雪）、高潮、波浪、洪水の各注意報がある。

**気象警報の種類とその基準**

|  |  |
| --- | --- |
| 種　　　類 | 基　　　　　　　　　　　　　　　　　　準 |
| 暴風雨警報 | 平均風速が毎秒２５ｍを超え日雨量１００ｍｍ以上で重大な被害が予想されるもの |
| 暴風雪警報 | 平均風速が毎秒２５ｍを超え日降雪量２５ｃｍ以上で重大な被害が予想されるもの |
| 大雨警報 | 日雨量が１００ｍｍ以上で重大な被害が予想されるもの |
| 大雪警報 | 日降雪量２０ｃｍ以上で重大な被害が予想されるもの |
| 火災警報 | 市長が気象台長から通報を受け、湿度、風速が一定の基準を超え出火の危険が大であるもの |

これ以外に、高潮、波浪、津波、洪水の各警報がある。

**（別表３）異常気象記録簿**

|  |  |
| --- | --- |
| 令和　　　年　　　月　　　日（　　　　曜日）天　候 | 対策本部長運行管理者又は補助者　氏　名 |
| 受　付 | 警 報 の 種 類 | 発 令 時 分 | 受 付 時 分 | 発　　令　　者 |
| 警 報 | 時　　分 | 時　　分 | 気象台 |
| 伝　達 | 伝 達 時 分 | 伝達箇所 | 相 手 方 氏 名 | 伝達時分 | 伝達箇所 | 相 手 方 氏 名 |
| 時 　分 |  |  | 時　　分 |  |  |
| 記　事 |
| ⑴収集した気象及び道路状況　　　⑸乗務員より報告された事項記事欄には次の事　⑵運行の状況　　　　　　　　　　⑹その他項を書いて下さい　⑶対策本部よりの指示事項⑷乗務員に与えた指示 |